



会期＝2015年9月8日(火)－10月18日(日)

※展示替を行います。前期＝9月8日(火)－9月27日(日) / 後期＝9月29日(火)－10月18日(日)

休館日＝9月28日(月)、10月5日(月)

開館時間＝10:00－18:00[毎週金・土曜日は20:00まで] ※入場受付は閉館の30分前まで

主催 千葉市美術館、産経新聞社

観覧料＝一般1000(800)円 / 大学生700(500)円

※小・中学生、高校生、障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売券、団体20名以上、および千葉市内在住65歳以上の方の料金

※千葉市美術館ミュージアムショップ[8月30日まで]、ローソンチケット[Lコード:35233]、

セブンイレブン[セブンチケット]、千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口[10月17日まで]にて販売。

※10月18日(日)は「市民の日」につき観覧無料

[巡回展情報]大阪歴史博物館(2015年10月31日～12月13日)

ごひいき割引
本展チケット(有料)半券の
ご提示で、会期中2回目以降
の観覧料200円引

展覧会概要

武禅と閨苑、大坂画壇が生んだ二人の異才―

江戸時代中期の大坂では、優れた手腕を持つ個性的な作風の絵師たちが活躍していました。近年、同時代の京都画壇が脚光を浴びる一方で、大坂の絵師たちの豊かな営みにも徐々に注目が集まっています。

本展は、知られざる大坂の絵師、武禅と閨苑に光を当てた初めての展覧会です。今でこそ、知る人ぞ知る存在となってしまいましたが、彼らは流行の中国絵画を学んだ「唐画師」として独自の表現を追求し、おおいに人気がありました。

墨江武禅(1734～1806)は船頭でしたが、絵師としても活躍し、盆景や金工作品も手がけました。彼は、大坂の浮世絵師月岡雪鼎に学ぶ一方で、中国絵画に関心を寄せ、光を意識した幻想的な作品やオランダ絵画の写しなど、一風変わった作品を描いています。

林閨苑(生没年不詳、1770～80年頃活動)は、文人画の大成者たる池大雅の弟子福原五岳に絵を学び、多くの中国絵画を見て創作に役立てました。華麗な花鳥図、荒々しく奇怪な表現の水墨画、風刺のきいた風俗図など実に多様な作品を残しています。

二人の画業をたどるとともに、師である雪鼎や五岳、さらに同時代の大坂や京都で活躍した伊藤若冲や曾我蕭白、松本奉時や耳鳥齋らの作品もあわせ、約150点の作品をご紹介します。

※会期中展示替えを行います。

※本展チラシでは墨江武禅の没年が1807年となっておりますが、正しくは1806年となります。

見どころ

【展覧会構成】

第一章	武禪の師友	第四章	林閨苑
第二章	墨江武禪	第五章	上方絵師百花繚乱
第三章	閨苑の師友		

・「唐画もん」って？

本展覧会では、中国の絵画に憧れ、描いた人々を、親しみを込めて「唐画もん」と名付けました。「唐画」ということばの「唐」は中国、広くは外国を意味します。「唐画」は中国の、または中国風の絵を指すことばとして使われていました。本展でご紹介する武禪や閨苑が活躍していた18世紀、中国画に強い影響を受けた南蘋派なんびんぱの絵画が流行しました。日本の絵師たちは、濃厚な色彩と繊細な描き込みによる南蘋派の花鳥画だけでなく、中国からもたらされた画の手引書や明～清の中国画を盛んに学習し、自らの画に取り入れています。このような多様な「中国的な」イメージを示す言葉が「唐画」です。当時流行の唐画を描く絵師のなかでも、武禪や閨苑は腕利きの絵師として人気を博していました。

・初めての本格的な紹介

墨江武禪と林閨苑。おそらく初めて名前を聞く方がほとんどではないでしょうか。近年、大阪歴史博物館で「筆飛將軍 林閨苑—異色の唐画師—」（2010年）という特集展示が行われたほか、府中市美術館での「三都画家くらべ」（2012年）では武禪、閨苑の作品がともに展示されました。徐々に作品を目にする機会が増えたとはいえ、いまだ大阪画壇を特集すること自体が関東では大変めずらしいことです。なかでも、知られざる異才の絵師、武禪・閨苑にスポットをあてる試みは、本展が初となります。全150点のうち、墨江武禪、林閨苑の作品がそれぞれ約50点、その他の作品を約50点展示します。

・若冲、蕭白ら「奇想」の絵師たちも

本展では、武禪、閨苑の他に、当時の大坂、京都で活躍した絵師の作品もご紹介します。現在人気の伊藤若冲は京都で活躍した絵師ですが、生涯に少なくとも二度大坂に滞在したことがあります。また曾我蕭白も京都に生まれ、中国画に学び、中国山水を多く残しています。このように、江戸時代中期の京都、大坂では個性的な画家が多く活躍しました。

※ 本展では、江戸時代以前の事例、文脈では「大坂」、近代以降は「大阪」と表記を分けております。

関連企画

○ 記念講演会

「近世大坂の絵画と唐画もん」

講師：岩佐伸一（大阪歴史博物館学芸員）

9月27日（日）14:00より（13:30開場予定）／11階講堂にて
先着150名（当日12:00より11階にて整理券配布）／聴講無料

○ ワークショップ（要申込）

「水墨画体験に挑戦！」

若冲が用いた水墨画の技法、筋目描きを体験します。

講師：住吉花間（水墨画家）

9月23日（水・祝）14:00より／11階講堂にて

定員20名／参加無料

（当館ホームページにて詳細をご確認の上、お申し込みください。）

【申込方法】

往復はがきに郵便番号、住所、電話番号、氏名、人数（各2名までお申込可）を明記の上、「水墨画体験ワークショップ参加希望」と明記の上、〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8 千葉市美術館 イベント係までお送りください。

※お申込は、9月14日（月）必着。申込多数の場合は抽選。

○ 落語会

「上方落語で大坂気分!!」

武禪・閨苑が活躍した大坂にちなんで催しです。30分程度の演目を2題上演予定。

出演：鈴々舎八糸馬（落語家）

10月10日（土）14:00より（13:30開場予定）／11階講堂にて
先着150名（当日12:00より11階にて整理券配布）／観覧無料

○ 市民美術講座

「はじめまして！大坂画壇」

講師：松岡まり江（当館学芸員）

10月3日（土）14:00より（13:30開場予定）／11階講堂にて

先着150名／聴講無料

○ ギャラリートーク

担当学芸員による-9月9日（水）14:00より

ボランティアスタッフによる-

会期中の毎週水曜日（9月9日を除く）14:00より

※水曜日以外の平日14:00にも開催することがあります。会場の混雑状況により中止となる場合があります。

千葉市美術館 プレスリリース

同時開催

所蔵作品展 「田中一村と東山魁夷—千葉ゆかりの画家たち、それぞれの道—」

千葉ゆかりの所蔵品の中から、近年収集の作品を中心に、代表的な作家の作品を展示します。

*「唐画もん—武禪に閻苑、若冲も」をご覧の方は無料

■ 市民美術講座

「所蔵作品展『田中一村と東山魁夷』の見どころ、味わいどころ」

講師：松尾知子(当館学芸係長)

9月19日(土)14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて／先着150名／聴講無料

記者レクチャー

報道関係の皆様を対象に、披露説明会を行います。スライドレクチャーにて作品の見どころを担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

9月8日(火)／14:00より(1時間程度)／10階会議室にて(その後、8・7階展示室へご案内いたします)

参加ご希望の方は同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。

次回展予告

開館20周年記念 杉本博司 趣味と芸術／今昔三部作

10月28日(水)－12月23日(水・祝)

当館の開館記念展「Tranquility—静謐」の招待作家だった杉本博司は、この20年で世界を代表する写真家へと飛躍しました。

開館20周年を記念として開かれる本展では、「静謐展」のとき展示された「海景」のシリーズと、自ら収集した古美術作品を中心とした新作インスタレーションを中心に展示を構成します。



杉本博司 (Teatro dei Rozi, Siena)
2014年 作家蔵 ©Hiroshi Sugimoto
Courtesy of Gallery Koyanagi

交通案内

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8

Tel. 043-221-2311(代) / FAX. 043-221-2316 / <http://www.ccma-net.jp>

jp

◎ JR 千葉駅東口より

・徒歩約15分

・バスのりば⑦より大病院行または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分

・千葉都市モノレール県庁前方面行「霞川公園駅」下車徒歩約5分

◎京成千葉中央駅東口より徒歩約10分

◎東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く

◎千葉市中央区役所と同じ建物です

◎地下に区役所と共有の駐車場がありますが、混雑が予想されますので、なるべく公共の交通機関をご利用ください



千葉市美術館 プレスリリース

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。是非、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAXにてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。

開館二十周年記念展 唐画もんー武禪に閨苑、若冲も



1. 林閨苑
《得双寿図》
個人蔵



2. 墨江武禪
《青緑山水溪流回図》
個人蔵



3. 林閨苑 《白孔雀図》
大阪歴史博物館



4. 墨江武禪 《美人図》
個人蔵



5. 伊藤若冲
《旭日松鶴図》
摘水軒記念文化振興財団
※後期展示



6. 伊藤若冲
《鶩鳥図》
個人蔵



7. 林閨苑
《芭蕉九官鳥図》
個人蔵



8. 墨江武禪 《花鳥図》
個人蔵

開館二十周年記念展 唐画もん — 武禅に閨苑、若冲も
広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■ 写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 行
FAX: 043-221-2316

貴社名:	媒体名:
ご担当者名:	発行予定日:
TEL:	発行部数:
FAX:	定価:
Email:	掲載予定コーナー名等:
画像到着希望日: 月 日 時まで	画像の掲載サイズ <small>(おおよそで結構です 例:5cm 四方、など)</small> :

■ 画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 林閨苑 《得双寿図》 個人蔵
2. 墨江武禅 《青緑山水溪流游回図》 個人蔵
3. 林閨苑 《白孔雀図》 大阪歴史博物館
4. 墨江武禅 《美人図》 個人蔵
5. 伊藤若冲 《旭日松鶴図》 摘水軒記念文化振興財団 ※後期展示
6. 伊藤若冲 《鶯鳥図》 個人蔵
7. 林閨苑 《芭蕉九官鳥図》 個人蔵
8. 墨江武禅 《花鳥図》 個人蔵

■ プレゼント用招待券申込

(ご希望の場合はチェックをつけてください)

- 5 組 10 名様分 希望します。
(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談下さい。)

チケット送付先
ご住所:〒

問い合わせ先

千葉市美術館 〒260-8733 千葉市中央区中央 3-10-8

Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

HP. <http://www.ccma-net.jp/>

担当学芸員: 松岡 まり江

広報担当: 磯野 愛